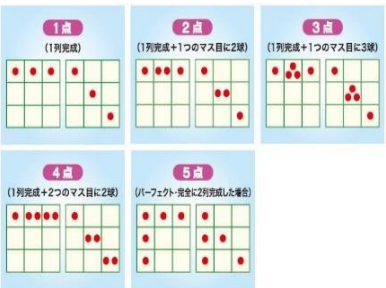
ニュースポーツ紹介

横須賀市が用具など持っているもの他

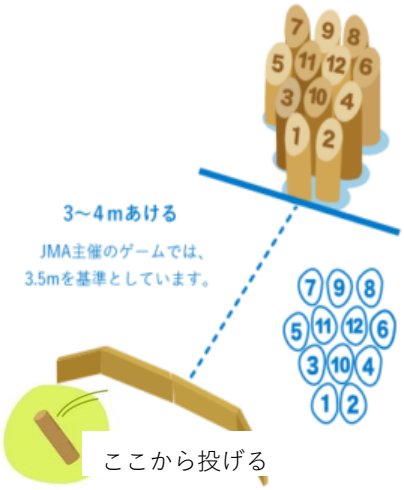
2023年10月

perry

種　目	内　　容
ソフトバレーボール 横須賀市ソフトバレーボール大会	ソフトバレーボールは、バレーボールから派生した球技。**福井県小浜市で考え出される**。ネットごしにゴム製の柔らかいボールを打ち合い、決められた点（1セット15点）を早く得点することを競う。 1986年に日本バレーボール協会がソフトバレーボールの全国的な展開を決定し、生涯スポーツとして普及活動をする。 平成２３年６月に横須賀サブアリーナにて、横須賀市体育指導委員協議会・横須賀市教育委員会主催による第１回ソフトバレーボール大会が開催されました。 協議会が主催で6月に大会を行っています。
キンボール 神明学区の例	キンボールとは、**1986年にカナダのマリオ・ドゥマースによって生み出され**、2001年に国際大会も開催されるようになった、直径122センチメートル（cm）のボールを使用して主に室内で行われる球技である。 キンボールの「キン」は英語の「キネスシス（kinesthesis）」の略で「運動感覚」といった意味であり、正式な競技名称はキンボールスポーツと言う。 ボールを打つ前に、**「オムニキン！」みんなで楽しみましょう！**という意味です。毎回、大きな声でいわないといけません。 試合は3チームで4名/チームで打つ人が、自分たちの色（ブラック）以外のピンク、またはグレーの色をコールする。コールされた色の人がボールをとる。
スリーアイズ スポーツ庁前長官も体験 	平成9年の「なみはな国体」「ふれ愛ビッグ大阪」を記念して、**大阪市生野区スポーツ推進委員協議会が考案したスポーツ**です。 10個のボールとわずかなスペースあれば、 １．いつでも、どこでも ２．幼児から高齢者まで ３．車イスでもできる ・６ｍ離れた場所から交互に投げる ・5個互いに投げるが、点数は右記 ・１ゲームは３または５セットマッチで得点多い方が勝ち 

ドッチビー 	ドッヂビー とは、布製のフライングディスクの一種であり、同時にそれを用いて行う競技を指す。怪我が少なく、短時間で運動量を確保出来る種目であるため、日本の小学校での授業、レクリエーションの教材として取り入れられている。 やり方 ・ドッヂビーは大きさが4種類あるが、そのうち一般的な270のものを用いる。 ・コートの大きさは、1辺が9メートルの正方形を2つ合わせたコートを使用する。 ・ルールは基本的に**ドッジボール**と同じであるが、2枚同時にドッヂビーを使用する場合もある。 ・ゲームの始め方はトスでコートとディスクを決定する。
バウンスボール 厚木市の例	バウンスボールは**鳥取県発祥のスポーツ**で、**年齢を問わず楽しめる生涯スポーツとして考案**されました。**必ずワンバウンドしてからうつ事**。ノーバウンドでうつと相手の得点となる。 コートとネット：コートは5メートル×12メートル(バドミントンシングルコート程度)とする。 ・ネットの高さは75センチメートルとする。 ボール：・競技球　丸型直径25センチメートル　重量90グラム チーム構成：試合は3人1組を基本として、シングル・ダブルスの対戦方式でもゲームを行う。 得点・セット及び勝敗：相手チームがサーブや返球に失敗したとき、または他の反則をしたときラリーに勝ち1点を得る。また、相手のミスによって得点となったときはサーブ権が移る。 ・1セット15点で3セットマッチを行う。ただし15点先取とし延長はしない。試合は3セットマッチとし、2セット先取したチームの勝利とする。
カローリング 	「カローリング」は、カナダや北欧の国々で親しまれている氷上のスポーツ〈カーリング〉から、**名古屋市にあるベアリングメーカーの方がヒントを得て平成５年６月に誕生**したインドアスポーツです。「カローリング」は、子供から高齢者まで年齢・性別・体力に関係なく気軽に競技できます。スポーツセンター、体育館、公民館、オフィスなど身近な施設のフロア（床面）を利用するため、天候に左右されません。 味方チームのジェットローラをポイントゾーンに近づけたり、相手チームのジェットローラを弾き飛ばして最後の１投で大逆転もありとてもスリリングなスポーツです！ 底面に３つの車輪がついた「ジェットローラー」と呼ば れるプラスチック製の円盤をコートの先端にある直径９０ cmのポイントゾーンに向け、相手チームのプレイヤーとジ ェットローラーを交互に走行してぶつけ合い、得点を競う ゲームです。

モルック



出典：日本モルック協会

テレビでも見かけるようになったモルックは、**フィンランド発祥のスポーツ**。
スポーツといっても、モルックと呼ばれる木製の棒を投げて、スキットルと呼ばれるピンを倒し点数を競うというシンプルなスポーツなので、**大人も子どもも一緒にモルックを楽しめます**。

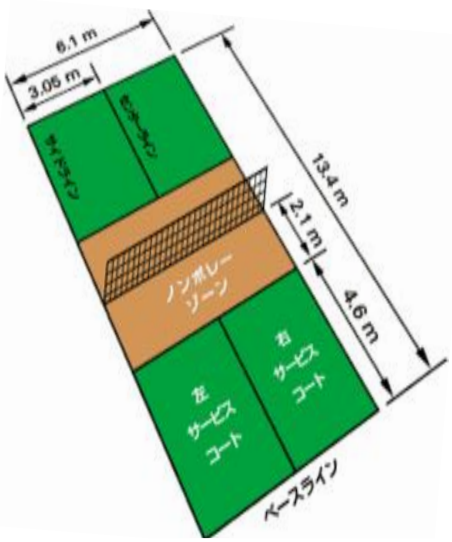
やり方ルール

①モルックを投げる位置にモルッカーリを設置し、そこから3～4m離れたところにスキットルを並べます。投げる際、モルッカーリに触れたり、踏み越えたりした場合、ファウルとなり0点で、次のチームに交代となります。
②2チーム以上で対戦するので投げる順番を決め、順番にモルックを投げ、スキットルを倒します。
③スキットルは、倒れた場所で再び立て直します。ゲームが進むにつれ、スキットルが広がり、狙うのが難しくなります。いずれかのチームが**50点を先取した時点でゲーム終了**となります。
※モルックは得点の数え方が特徴的です。
スキットルが複数本（2本以上）倒れた場合
倒れた本数がそのまま得点になります。スキットルが5本倒れた場合は、5点が得点になります。
スキットルが1本のみ倒れた場合
スキットルが1本のみ倒れた場合は、倒れたスキットルに表示されている数字が得点になります。倒れたスキットルに表示されている数字が12だった場合、12点が得点になります。
スキットルが完全に倒れていない場合
スキットル同士が重なるなどして完全に倒れていないスキットルは点数に反映されません。

51点以上になった場合は25点からやり直しです。
3回連続して倒せないとゲームは負けとなる。

ピックルボール

もっと知りたい方は、
https://sukataishi.jp/update/docs/20221020102125.pdf



ピックルボール（Pickleball）は、コートにおいて、プラスチック製で中空のボールに多数の穴があいたものを、木製などの固いパドル（ラケット）で打ち合う競技あるいはスポーツ。卓球・テニス・バドミントンを元に考えられた競技で、ルールや戦略などはテニスに準ずる。ボールの多数の穴によって空気抵抗が増し、ボールの速度が比較的低いので、年配者や子供でもプレーでき、幅広い世代の人々が楽しめるのが特徴・
何より<u>プレーヤー同士の交流や身体を動かしていることを楽しむことが主眼のスポーツ</u>で、レクリエーション的な性格を持つ。

歴史的には、1965年アメリカのベインブリッジ島の とある家庭で、退屈した子どもが親に「何か楽しい遊びはないの？」と求めたところ、父親がその子どものために、家族で楽しめるゲームとして考案し、道具を自作し、次第に普及してゆくことになった。ピックルの名前は飼い犬の名前に由来する。
主にアメリカで普及しており、愛好者は40万人を超え、プロピックルボール協会のツアー大会など、賞金付き大会も開催されている。特にミックス・ダブルス（＝男・女のカップルで行うダブルス）の人気は高い。
日本においても中高齢の人でも楽しめる「生涯スポーツ」として自治体などの主導で普及が図られている。R4年度、藤沢市・大和市・横須賀市の交流会で紹介された。また、横須賀市のスポーツフェスタ2022

	でも西体育会館で紹介され、体験された方もある。今注目のスポーツでもある。

^